# にほんごサロンにおける日本語初級者への配慮

## ～誰もが「安心して日本語を話せる場」を目指して～

羽富文子・港区国際交流協会

### 1. 実践活動の概要と目的

港区主催の日本語学習支援プロジェクトには「日本語教室」や「にほんごサロン」がある。サロンは、それまで学んだ日本語を活かし、地域住民と繋がる実践の場となっており、この両方の事業を持っていることが港区の強みである。しかし、教室修了者（＝日本語初級者）のうち、サロンを 2 期以上継続して参加する人は半数以下である。理由は、帰国や仕事などの個人的理由の他、自身の日本語力に不安を感じ、サロンを自分の居場所と感じられていないというケースもある。本実践活動では、サロンに参加する教室修了者の継続状況について現状を把握するとともに、アンケート調査により初級者対応として効果的な工夫を検討し、実践した。さらには「やさしい日本語」勉強会を開き、日本人参加者の日本語調整能力向上を支援した。国籍や日本語レベルに関わらず、誰もが「安心して日本語を話せる場」、「互いに学びがある場」となるようサロンの改善を試みた。

### 2. 課題設定

【状況目標】日本語初級者にとってもサロンが「安心して日本語が話せる場」「互いに学びがある場」となり、指標として教室修了者の 2 期以上の継続率を 1 年後に現在の 2 倍にする。

【行為目標】①日本語初級者への配慮として、コーディネーターができる工夫を 2 つ以上見つける。
②日本語初級者のグループにも入ることができる日本人参加者を 2 人以上育成する。

### 3. これまでの取り組み（2024 年 8 月～2025 年 1 月）

#### 3.1 日本語教室修了者のにほんごサロン継続状況

2021 年 11 月に港区日本語教室第 1 期生が修了した。それから 2024 年 8 月期までに港区にほんごサロンは 18 期（1 期は 5 回のセッションで構成）開催され、45 名の教室修了者がサロンに参加した。

＜日本語教室修了者のにほんごサロン継続状況＞（2024 年 10 月現在）

| | |
|---|---|
| 2 期以上継続 | 18 名（40%）※うち、7 名は日本語教室参加前から既にサロンに参加 |
| 1 期のみ参加 | 27 名（60%）※うち、11 名は 5 回中 1 回のみ参加 |
| 計 | 45 名 |

#### 3.2 日本語初級者へのアンケート調査（行為目標①）

まず、2024 年 7 月期と 8 月期のサロンにて、日本語教室修了者を含む日本語初級者 11 名にアンケートを実施した。初級者に配慮した 10 項目の工夫を提案し、各項目に効果があるか予想してもらった。次に、アンケートから効果が期待できるとされた 8 項目の工夫を 10 月期のサロンで実施した。そして、10 月期の日本語初級者 7 名にそれら 8 項目の効果について、アンケートにより評価してもらった。２つのアンケートの結果、以下のことがわかった。

＜初級者への配慮として、コーディネーターができる工夫＞

1) ファシリテーターの声を聞き取りやすいよう、また、スライドが見やすいよう部屋前方の席を案内する。ただし、前方の席を好まない人もいることを心得た声掛けをすること。
2) 配布資料にはテーマに関する語彙（本調査では 5〜10 語）や例文、イラストを多く含める。
3) まだサロンに慣れていない日本語教室修了者がいる場合には、日本語教室で扱った話題や活動をサロンの一部に取り入れる。また、修了者同士を同じグループにすることを考えてもよい。
4) 初級者と同じグループのメンバーに対して、「やさしい日本語」（ゆっくり待って聞こうとする態度、表情やジェスチャーによる豊かな反応を含む）で話すことや、文法説明は求めに応じて行うのがよいことを伝える。

今回、アンケートにより日本語初級者の声を聞いたことで、私自身が確信を持って改善策を進めることができた。また、サロンの場作りに日本語初級者も参加することができた。

### 3.3 「やさしい日本語」勉強会の開催（行為目標②）

2024 年 9 月と 2025 年 1 月に日本人参加者有志による「やさしい日本語」勉強会（90 分×全 3 回）を開催した。1 回目は語彙、2 回目は文、3 回目はまとまった情報をそれぞれやさしく伝えることを学び合った。毎回、最後には「自己紹介すごろく」で、その日の学びを意識した会話練習をした。

＜「やさしい日本語」勉強会参加人数>

| | |
|---|---|
| 2024 年 9 月（全 3 回） | 1 回目　5 名　／　2 回目　2 名　／　3 回目　2 名 |
| 2025 年 1 月（全 3 回） | 1 回目　3 名　／　2 回目　2 名　／　3 回目　3 名 |

勉強会参加者の多くは既に初級者のグループに入った経験があった。「やさしい日本語」を学ぶだけでなく、各々がサロンで感じていることや実践している工夫を共有した。今後、新たに初級者のグループにも入っていただける方が 1 名増えた。

実は、勉強会への参加人数は私の予想よりも少なかった。しかし、実際はサロンに来る方にはそれぞれに関心事や参加目的があり、都合もあるので、この数を少ないとは言えない。その一方で、より多くの方と会話を楽しむことができる「やさしい日本語」の魅力を今後も継続して啓発していきたい。

## 4. 実践を通じて、地域日本語教育コーディネーターとして果たした役割

1) 近年、にほんごサロンの構成メンバーが徐々に変化し、日本語初級者が増加してきた。その変化に対応するための工夫を検討し、実践した。
2) 港区の日本語学習支援事業は複数ある。それらの事業は、外国人住民が日本語習得の各段階に合わせて、継続的に参加できる形で設計されている。今回の実践では、そのうち日本語教室からにほんごサロンへの移行をより円滑にする工夫を検討し、実践した。

## 5. 地域日本語教育コーディネーターとして自身が大切にしたい視点

本実践活動では「にほんごサロンの本質とは何か」という最も基本的かつ重要な軸を自分の中に持てたことが大きな収穫であった。どの事業でも、参加者や他のスタッフの声を聞きながら、自分なりの軸を持ち、またそれを仲間と互いに共有することが、事業の改善につながると確信した。

以上